



## 住まいと暮らしの 「ありたい姿」を実現し、 持続可能な企業として 歩み続けます。

長谷工コーポレーション  
代表取締役社長

辻 範 明

### 住まいづくりを通じて暮らしの質を高め、 より豊かな社会づくりに貢献します。

創業から82年目を迎えた長谷工グループは、その長きにわたる歩みの中で、1969年に自社マンション第1号を竣工、1973年にはマンション施工戸数日本一を達成し、マンションのスタンダードを築いてきました。現在、施工累計実績は64万戸を超え、国内の分譲マンションストックの約1割を占めるトップメーカーとして、業界をリードしています。

私たちは、企業理念「都市と人間の最適な生活環境を創造し、社会に貢献する。」を全社に浸透させ、事業活動の根幹として共有しています。この理念に基づく取り組みは、住まいに関するあらゆるソリューションを駆使し、お住まいになるお客様の暮らしに寄り添いながら、暮らしや生活の質の向上を支えていくこと。そして、安全・安心に永く暮らせる住まいを社会資本として整備し、質の高いインフラの維持・提供につなげ、豊かな社会づくりに貢献していくこと。それが私たち長谷工グループのミッションであり、マンションのトップメーカーに課せられた責務であると考えています。

マンション用地の情報収集、事業計画の立案・提案、

設計、施工を起点とし、分譲、販売、管理、リフォームから、さらには流通仲介や建替え、高齢者向け住宅事業を通じて、ライフサイクル全体にサポートを拡げていきます。

### 建設業界を取り巻く経営課題に対応。 新たな提供価値を生み出します。

建設業界は近年、深刻な人手不足に直面しており、人材の確保・育成に注力しつつ、同時に生産性向上及び業務効率化に向けた取り組みを強化し、労働環境の改善と省人化への対応を図る必要に迫られています。

また一方、住まいにおいては少子高齢化とライフスタイルの変化を背景に、多様化するニーズへの対応が求められている状況です。

長谷工グループでは、施工における複雑部位のプレキャスト化や標準化・ユニット化とともに、設計では長谷工版BIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)の導入を推進し、品質・生産性向上を追求しています。BIMについては、マンション入居者の生活情報を収集するLIM(リビング・インフォメーション・モデリング)と連動させ、居住者ニーズを捉えた新たな商品・

サービスの開発につなげる取り組みも行っています。

新たな動きでは、中四国・北関東へ事業エリアを拡大し、災害にも強く、安全・安心な住まいであるマンションを地方都市に供給する体制を整えています。また、東京都多摩市に設立した「長谷工テクニカルセンター」には、「長谷工技術研究所」「長谷工マンションミュージアム」「グループ技術研修センター」「長谷工コミュニティアウル24センター」といった施設が集約されており、住まう方々の目線に立った安全・安心、快適に住まうための研究・技術開発や、管理スタッフの研修を行うとともに、広くマンション事業主や行政、管理組合、そしてお客さまに対して新技術・新商品・技術検証等を情報発信する拠点としての役割を担っていきます。

事業を支える人材資本の強化施策としては「働き方改革」の一環として、建設作業所での週休2日の推進、女性社員の積極登用、建設キャリアアップシステムの導入、現場作業リスクの低減などに注力し、生き活きと働ける環境の整備を進めています。

また、2018年10月には、将来に向けた事業改革の先導を担う「価値創生部門」を新設しました。現在、ICT・IoTなどのデジタル技術や先進的技術を活用した新しい事業モデルの創生・実証に着手しています。

### 事業を通じて社会課題を解決すべく、 4つのCSR取り組みテーマをさらに深耕します。

6ヵ年経営計画の後半3年間(2018年3月期～2020年3月期)として推進中の「newborn HASEKO Jump Up Plan(NB計画)」は、いよいよ最終期を迎えました。「NB計画」では、企業としての社会的責任の遂行を明確に打ち出すべく、2018年3月に「CSRビジョン」及び「CSR方針」を制定しました。これらの指針は、環境・社会との共存共栄を果たし、ステークホルダーとともに持続可能な社会を実現するための方向性を示すものであり、「住んでいたい空間」「働いていたい場所」「大切にしたい風景」「信頼される組織風土」の4テーマを掲げ、関連するマテリアリティとSDGs(国連による持続可能な開発目標)項目を特定しました。

「住んでいたい空間」では、生活空間の創造とともに、

安全・安心と環境配慮のさらなる向上を図りながら、保育・教育や介護、福祉など、人々の暮らしの質を高めていく事業を展開しています。「働いていたい場所」では、多様な人材が活躍し、成長できる職場環境づくりに注力しています。「大切にしたい風景」では、住まいと暮らしのサービスを提供する過程で環境配慮を推進し、省資源とエネルギーの効率化を追求しています。私たちは、これらの取り組みをSDGs17項目のうち10項目と関連づけました。経営戦略に基づく社会課題の解決が、さらなる事業機会をもたらすと考えています。

そして「信頼される組織風土」では、コンプライアンス対応やリスク管理意識を強化しつつ、グループ総合力を高め、成長要素につなげていく取り組みを継続しています。

2020年3月期は、期初よりスタートした新たなマネジメント体制のもと4つのCSR取り組みテーマをさらに深耕し、「NB計画」による成果として結実させ、次のステージに向けた礎を構築していきます。

### 持続可能な企業の実現に向けた 組織風土・企業文化を育てていきます。

長谷工グループがこれからも世の中に必要とされ、発展し続けていくためには、事業活動を通じて社会に貢献し、企業価値と社会価値を同時に実現する姿勢が求められます。その姿勢をグループ全体で共有しながら、すべての社員が誇りに思える企業を目指し、社員ひとり一人の成長を会社の成長につなげていきたいと考えています。

私たちは今、持続可能な企業の実現に向けた組織風土の形成に努めています。先ほど述べました「価値創生部門」の設置もその一環であり、世の中の変化に積極的に対応すべく、失敗を恐れずに新たなチャレンジを行い、常に進化し続ける企業文化を育てていく方針です。

そして、すべてのステークホルダーの皆さまとの緊密な関係を保持し、その輪を大きく広げながら「住まいと暮らしの創造企業グループ」としてのさらなる飛躍を遂げてまいります。

2019年10月